令和７年度　第１回　足立区地域包括ケアシステム推進会議

日時：令和7年6月13日（金）午後2時から
会場：すこやかプラザ あだち 大研修室

１ 新任委員紹介

２ 副会長選出

３ 議題

（1）介護予防事業の再構築に向けた検討について

（2）（仮称）足立区認知症施策推進条例の制定について

（3）チームオレンジの取組について

（4）令和7年度地域包括支援センターの業務委託評価の実施について

４ 報告

（1）令和6年度医療介護連携推進事業の実施結果について

（2）足立区在宅療養推進協議会の設置について

（3）令和6年度「足立区地域包括ケアシステム8つの推進事業」の実施結果について

（4）あだち脳活ラボの利用状況および利用促進に向けた新たな機能について

（5）令和7年度認知症月間の取組について（案）

５ 情報連絡

（1）令和6年度介護予防事業の実施結果について

（2）「ぱく増し」月間（令和7年2月）の実施結果について

（3）令和6年度「食べてフレイル予防」事業の実施結果について

足立区地域包括ケアシステム推進会議委員名簿

※　敬称略、順不同

番号	役職	氏　名	フリガナ	選出団体名・所属における役職 等
1	会長	酒井　雅男	ｻｶｲ　ﾏｻｵ	学識経験者
2	副会長	白川　泰之	ｼﾗｶﾜ　ﾔｽﾕｷ	学識経験者
3	副会長	山中　崇	ﾔﾏﾅｶ　ﾀｶｼ	学識経験者
4	副会長	粟田　主一	ｱﾜﾀ　ｼｭｲﾁ	学識経験者
5	委員	榊原　美樹	ｻｶｷﾊﾞﾗ　ﾐｷ	学識経験者
6	委員	山下　俊樹	ﾔﾏｼﾀ　ﾄｼｷ	足立区医師会　副会長
7	委員	賀川　幸英	ｶｶﾞﾜ　ﾕｷﾋﾃﾞ	足立区医師会　副会長
8	委員	内山　真	ｳﾁﾔﾏ　ﾏｺﾄ	足立区医師会　理事
9	委員	佐藤　浩史	ｻﾄｳ　ﾋﾛﾌﾐ	東京都足立区歯科医師会　常務理事
10	委員	花田　豊實	ﾊﾅﾀﾞ　ﾄﾖﾐ	東京都足立区歯科医師会　理事
11	委員	鈴木　康大	ｽｽﾞｷ　ﾔｽﾋﾛ	足立区薬剤師会　理事
12	委員	和田　庸右	ﾜﾀﾞ　ﾖｳｽｹ	東京都柔道整復師会足立支部　副支部長
13	委員	白井　良一	ｼﾗｲ　ﾖｼｶｽﾞ	足立区介護サービス事業者連絡協議会　副会長（居宅介護支援部会部会長）
14	委員	塩谷　総吾	ｼｵﾀﾆ　ｿｳｺﾞ	足立区介護サービス事業者連絡協議会　副会長（訪問介護部会部会長）
15	委員	羽田　雅代	ﾊﾀﾞ　ﾏｻﾖ	足立区介護サービス事業者連絡協議会　副会長（訪問看護部会部会長）
16	委員	廣島　高志	ﾋﾛｼﾏ　ﾀｶｼ	足立区介護サービス事業者連絡協議会　副会長（通所部会部会長）
17	委員	小島　直樹	ｺｼﾞﾏ　ﾅｵｷ	足立区高齢者福祉施設連絡協議会　会長
18	委員	鈴木　勉	ｽｽﾞｷ　ﾂﾄﾑ	足立区介護老人保健施設事務長会（レーベンハウス事務長）
19	委員	小浦　梓	ｺｳﾗ　ｱｽﾞｻ	東京都栄養士会足立支部　副支部長
20	委員	山ノ内　聖一	ﾔﾏﾉｳﾁ　ｾｲｲﾁ	あだちPOSネットワーク　世話人
21	委員	谷　将之	ﾀﾆ　ﾏｻﾕｷ	東京都認知症疾患医療センター　センター長
22	委員	大竹　吉男	ｵｵﾀｹ　ﾖｼｵ	足立区ボランティア連合会　会長
23	委員	内山　清	ｳﾁﾔﾏ　ｷﾖｼ	足立区シルバー人材センター　理事
24	委員	中村　輝夫	ﾅｶﾑﾗ　ﾃﾙｵ	足立区友愛クラブ連合会　ねんりん編集委員長
25	委員	鈴木　由美子	ｽｽﾞｷ　ﾕﾐｺ	足立区民生･児童委員協議会　第七合同花畑地区会長
26	委員	内藤　久子	ﾅｲﾄｳ　ﾋｻｺ	足立区町会･自治会連合会　五反野西町会会長
27	委員	結城　宣博	ﾕｳｷ　ﾉﾌﾞﾋﾛ	足立区社会福祉協議会(地域福祉部長)
28	委員	堀　崇樹	ﾎﾘ　ﾀｶｷ	足立区社会福祉協議会（基幹地域包括支援センター東部課長）
29	委員	茂木　聡直	ﾓﾃｷﾞ　ﾄｼﾅｵ	区職員(地域のちから推進部長)
30	委員	伊東　貴志	ｲﾄｳ　ﾀｶｼ	区職員(福祉部長)
31	委員	半貫　陽子	ﾊﾝﾇｷ　ﾖｳｺ	区職員(高齢者施策推進室長)
32	委員	馬場　優子	ﾊﾞﾊﾞ　ﾕｳｺ	区職員(衛生部長)
33	委員	田中　靖夫	ﾀﾅｶ　ﾔｽｵ	区職員(建築室長)
34	委員	徳井　傑	ﾄｸｲ　ﾀｶｼ	区職員(医療介護連携課長)
35	委員	小峯　直樹	ｺﾐﾈ　ﾅｵｷ	区職員(介護保険課長)

令和７年度　第１回地域包括ケアシステム推進会議

議題（１）

令和７年６月１３日

件　　名	**介護予防事業の再構築に向けた検討について**
所 管 部 課	福祉部 高齢者施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課
内　　容	令和８年度介護予防事業の再構築に向けて、以下のとおり事業見直しの検討を行う。 **１　目的** 令和６年度介護保険料の改定をふまえ、継続的に介護予防事業の課題を整理し、より一層効率的かつ効果的な介護予防事業を展開していく。 **２　はつらつ高齢者部会への協議事項（案）** （１）はつらつ教室の在り方について ア　課題 多くの会場で教室が「通いの場」化している現状があるため、今後の事業の在り方については、抜本的な見直しも含めた地域の関係機関との協議・検討が必要である。 （２）みんなで元気アップ教室のプログラム内容について ア　課題 地域包括支援センターから、コロナ禍前後でウォーキングに対する高齢者のニーズが変化してきているとの意見もあり、代替メニューの要否について検討が必要である。 **３　今後の方針** はつらつ高齢者部会を中心に地域の関係機関とも課題を共有し、今後の事業展開について協議・検討を進めていく。

令和７年度　第１回地域包括ケアシステム推進会議

議題（２）

令和７年６月１３日

件　　名	**（仮称）足立区認知症施策推進条例の制定について**
所 管 部 課	福祉部 高齢者施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課
内　　容	（仮称）足立区認知症施策推進条例の制定に向けて、以下のとおり検討する。 **１　背景** 近年、認知症に関する施策推進を目的とした条例を制定する地方自治体が増えている。また、令和６年１月１日に国の認知症基本法が施行され、認知症の方が尊厳を保持しつつ希望をもって暮らすことができるよう基本理念や基本的施策が示された。 **２　目的** 事業者や地域の方と区の理念を共有し、認知症施策を総合的かつ計画的に推進する。また、認知症の方を含めた区民一人ひとりがその個性と能力を十分に発揮し、共生する社会の実現を展開していく。 **３　認知症施策推進部会への協議事項（案）** （１）認知症本人や家族からの意見の条例への反映について （２）パブリックコメントの条例への反映について （３）条例制定後の認知症施策の展開について

令和７年度　第１回地域包括ケアシステム推進会議

議題（３）

令和７年６月１３日

件　　名	**チームオレンジの取組について**
所 管 部 課	福祉部 高齢者施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課
内　　容	足立区において、チームオレンジの取組を以下のとおり検討する。 **１　チームオレンジとは** 認知症の方やその家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援者とをつなぐ仕組みおよび団体。 **２　背景** 令和元年６月に策定された国の認知症施策推進大綱において、認知症の方が安心して暮らし続けられる地域づくりを進める観点等か「チームオレンジ」を令和７年度までに全ての区市町村で整備するという目標が掲げられた。 **３　目的** 足立区において、認知症の方の社会参加を支援し、認知症の方が社会とのつながりを維持しながら、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすことができる住民主体の地域づくりに寄与する活動を推進する。 **４　内容** 別紙参照 **５　認知症施策推進部会への協議事項（案）** （１）足立区版チームオレンジの仕組みの定着について （２）足立区全体への取組の展開について

足立区チームオレンジの概要案

議題（３）別紙

足立区の目指すチームオレンジ

認知症の人の社会参加を支援することで、認知症の人が社会とのつながりを維持しながら、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすことができる地域づくりを推進する、住民主体のチームオレンジ

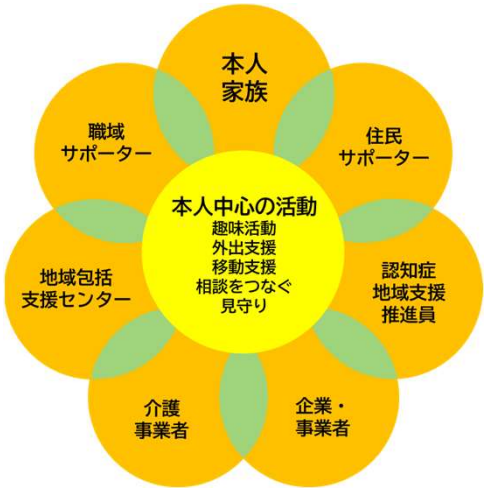
【チームオレンジの3つの基本】

1 認知症の人の社会参加を支援するため、認知症の人もチームの一員として参加できるように努めるとともに、認知症の人の意見を活動に反映していること。

2 認知症の人及びその家族の困りごとを継続して支援できること。

3 認知症サポーターでチームが組まれており、リーダー及びサブリーダーが認知症サポーターステップアップ講座の修了者又は修了予定者であること。

【チームオレンジ構成メンバー】



チームオレンジは、認知症の人やその家族が住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らすことができる地域づくりに寄与する活動を行う団体をいう。

相談

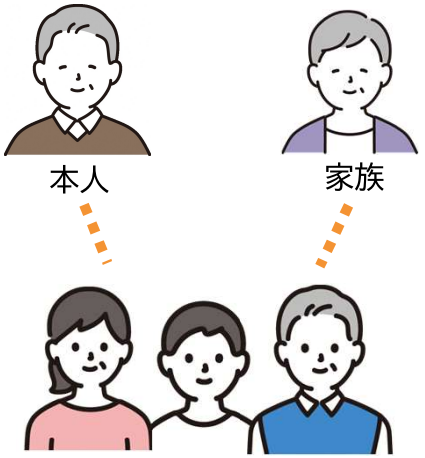
認知症の人・家族の支援ニーズ等を把握

区
ホウカツ
チームオレンジコーディネーター
認知症地域支援推進員

情報共有・連携

チームとのマッチング

チームオレンジ



【活動例】

- 話し相手、困りごとなどのお手伝い
- 社会参加 趣味活動の支援
- 外出先への付き添い・送迎
- 地域における見守り・声かけ

【生活支援体制整備事業】
生活支援コーディネーター（一層二層）と連携
例：地域ケア会議、絆のあんしんネットワーク連絡会　など

令和７年度　第１回地域包括ケアシステム推進会議　議題（４）

令和７年６月１３日

件　　名	**令和７年度地域包括支援センターの業務委託評価の実施について**
所 管 部 課	福祉部 高齢者施策推進室 高齢者地域包括ケア推進課
内　　容	地域包括支援センター（以下「ホウカツ」という。）の業務委託評価の実施について報告する。 **１　目的** ホウカツが、地域包括ケアシステムの中核的役割を担い、地域において求められる機能を十分に発揮するため、人員体制及び業務の状況を定期的に把握・評価する。また、その結果を踏まえ、区及び受託者が事業の質の向上のための必要な改善を図る。 **２　根拠法令等** （１）定期的な点検や評価 介護保険法第１１５条の４６第４項、第９項 （２）評価結果の公表 介護保険法第１１５条の４６第１０項 **３　地域包括支援センター運営協議部会への協議事項（案）** （１）評価の実施方法等 （２）評価結果の審議 ※　別紙「令和７年度足立区地域包括支援センターの業務委託評価（案）」のとおり。 **４　評価結果の公表** （１）地域包括ケアシステム推進会議に報告 （２）足立区ホームページに掲載 （３）その他、事務局が必要と判断した方法で公表

令和７年度 足立区地域包括支援センターの業務委託評価（案）
～　ＰＤＣＡと足立区独自の評価体系　～

議題（４）別紙

地域包括支援センター＝ホウカツ

事業計画を立てる（ホウカツ）３月中旬～４月下旬

運営方針・仕様書・評価結果（改善要求）に基づいた事業計画書を作成

1　足立区と受託法人で契約を締結
2　高齢者地域包括ケア推進課・医療介護連携課・絆づくり担当課とホウカツで目的を共有
3　高齢者地域包括ケア推進課・医療介護連携課・絆づくり担当課とホウカツで契約内容の計画をヒアリング（６月頃）

Plan

事業計画を実行する（ホウカツ）

委託契約内容を実施（１０事業）

仕様書に基づいた委託業務を実施

1　運営体制
2　総合相談支援
3　権利擁護
4　包括的・継続的ケアマネジメント
5　在宅医療・介護連携推進
6　生活支援体制整備
7　認知症施策関連
8　地域ケア会議推進
9　家族介護者支援
10　寄り添い支援活動

Do

業務改善を行う（ホウカツ）２月上旬～３月下旬

評価結果に基づいた改善要求（運営体制や事業計画など）

Action

		不良	普通	良好
	評　　点	６０点未満	６０点以上８０点未満	８０点以上
	該　当　数			
①	センター長ヒアリング	（2月上旬） 地域包括ケア推進課とセンター長が履行状況や取組内容を確認		―
②	**評価結果ヒアリング**	（3月上旬～３月下旬） **高齢者地域包括ケア推進課とセンター長等（法人の代表者等）が指摘事項を共有**		
	改善要求	**高齢者地域包括ケア推進課からセンター長等に、評価結果に基づく各事業毎の業務内容の改善やサービスの質の向上を要求**		
③	**出張研修（約5か所）**	（６月上旬～６月中旬） **基幹ホウカツと高齢者地域包括ケア推進課でホウカツに出向き改善要求に基づいた出張研修を開催**		―

履行状況を評価する（足立区）１月中旬～２月上旬

履行状況をできるだけ数値化した項目で客観的評価を実施

Check

		自己評価（２２８項目・９月頃）
①	評　価　者	ホウカツの職員
	評 価 視 点	厚生労働省が作成したホウカツの運営マニュアル及び区の運営方針に基づき、実践の振り返り及び業務に対しての気づき

		履行評価（１５項目）	取組評価（２３５項目）
②	評　価　者	高齢者地域包括ケア推進課、医療介護連携課、絆づくり担当課 （３課６係：約３０名）	
	評 価 視 点	委託仕様書の履行状況	履行状況の取組内容

		委員評価
③	評　価　者	・　運営協議部会員：５名 （学識：榊原氏、区民代表：足立区友愛クラブ連合会、足立区民生･児童委員協議会、足立区町会･自治会連合会） ・　区管理職：４名（所管の管理職）
	評 価 視 点	利用者目線に立ち専門的・客観的

令和７年度　第１回地域包括ケアシステム推進会議

報告（１）

令和７年６月１３日

件　　名	**令和６年度　医療介護連携推進事業の実施結果について**
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 医療介護連携課
内　　容	在宅医療と介護を一体的に提供するための医療介護連携推進事業について、令和６年度から在宅療養区民啓発講座及びＭＣＳ操作研修会を新たに追加したため、実施結果を報告する。

１　医療介護連携研修【継続】

（１）団体別参加者（医療介護スキルアップ研修・多職種連携研会）

	団　体　名	参加人数
1	足立区医師会	54
2	東京都足立区歯科医師会	11
3	足立区薬剤師会	97
4	東京都柔道整復師会足立支部	17
5	足立区介護サービス事業者連絡協議会	208
6	あだちＰＯＳネットワーク	28
7	東京都栄養士会足立支部	23
8	足立区多機能サービス連絡会	7
9	地域包括支援センター	203
－	足立区（福祉事務所 24・災害対策課 4）	28
合計		**676**

（２）実施結果

ア　医療介護スキルアップ研修

（ア）目的

在宅療養に関わる多職種の「医療介護現場での実践力の向上」を図ることで、在宅療養の提供体制を強化していく。

（イ）開催結果

【第１回】

開催日時	令和６年７月１７日（水）１９時～２１時
開催場所	足立区役所庁舎ホール
研修テーマ・講師	①　「認知症の方への服薬支援」 足立区薬剤師会　　霜越　千裕　氏 ②　「糖尿病と薬」 足立区薬剤師会　　阿部　裕一　氏 ③　「適正な薬剤の使用につなげるために」 足立区薬剤師会　　浅見　恭史　氏
参加者	１９０名

【第２回】

開催日時	令和７年２月２７日（木）１９時～２１時
開催場所	足立区役所庁舎ホール
研修テーマ・講師	①　「大切なひとに自分の思いを伝える」 アドバンス・ケア・プランニングについて 一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会 主任介護支援専門員　千葉　洋平　氏 ②　シンポジウム 座長　　千葉　洋平　　氏 パネリスト 介護サービス事業者連絡協議会 居宅介護支援部会　内山　ちあき　氏 訪問看護部会　　羽田　雅代　　氏 訪問介護部会　　塩谷　総吾　　氏
参加者	１２２名

医療介護スキルアップ研修会の様子

イ　多職種連携研修会

（ア）目的

在宅療養に関わる多職種の「顔が見え相談できる関係づくり」を進めることで、ブロック内で課題解決する連携体制を構築する。

（イ）開催回数　区内５ブロック　各１回

（ウ）開催結果【別紙】

多職種連携研修会の様子

ウ　多職種連携全体交流会

開催日時	令和６年１２月１２日（木）１９時～２１時
開催場所	足立区役所庁舎ホール
内容	①　令和６年度多職種連携研修各ブロック開催結果の情報共有 ②　令和６年度多職種連携研修各ブロック開催内容の検討 ③　すこやかプラザ　あだち大研修室の概要説明
参加者	４９名

（３）今後の方針

ア　医療介護スキルアップ研修会は、「すこやかプラザ　あだち」の大研修室を活用し、対面とＷｅｂのハイブリッド開催を実施する。

イ　多職種連携研修会は、各ブロック世話人会を年３回開催し、研修の企画、実施のほか、医療介護連携におけるブロックごとの課題解決に向けた検討を行っていく。

２　入退院支援相談員交流会【新規】

（１）実施結果

ア　目的

区内地域包括ケア病棟（１７病院）及び精神科入院病棟を持つ病院（６病院）の相談員交流会を開催し、病院間連携、病院と介護事業所との連携を促進する。

イ　開催結果

回数	開催日	内容	参加者
第１回	令和 6 年 4 月 26 日(金)	各病院の紹介 意見交換	7 病院 15 名
第２回	令和 6 年 7 月 4 日 （木）	身寄りのない高齢者の死亡対応 成年後見制度	18 病院 28 名
第３回	令和 6 年 10 月 17 日 （木）	ケアマネジャーの職務について	17 病院 22 名
第４回	令和 7 年 1 月 30 日 （木）	病院の地域連携について	13 病院 20 名
合計			55 病院 85 名

（２）今後の方針

令和７年度は、在宅療養支援病院全般の相談員に対象を拡大して実施していく。

入退院支援相談員交流会の様子

３　在宅療養講座【新規】

（１）目的

訪問型の医療や介護サービスを利用しながら「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続ける」ための在宅療養について、区民の理解を深める。

（２）開催結果

開催日時	令和７年１月１８日（土）１４時～１６時
開催場所	梅田地域学習センター
研修テーマ・講師	①　「在宅療養ってなに？」 在宅療養総論の説明 講師　足立区医師会 千住中央診療所　山本　亘　氏 ②　「笑和体操」 首・肩・腰のチョコっと体操 講師　地域包括支援センター西新井 大西　健太郎　氏 ③　「在宅療養の実際」 点滴、人工呼吸器など在宅療養支援チームの活動説明 講師　在宅総合支援センターふくろう 藪井　ひとみ　氏 あけぼの訪問看護ステーション あだち 羽田　雅代　氏
参加者	５０名

（３）今後の方針

令和７年度は、区民啓発講座のほか、医療介護団体と連携して区民啓発紙を発行し、在宅療養の区民啓発を進めていく。

在宅療養講座の様子

４　ＭＣＳ操作研修会【新規】

（１）目的

ＭＣＳ※を登録した医療介護関係者が情報共有の操作方法を学ぶことで、患者・利用者の円滑なサービス提供を促進する。

※　ＭＣＳ（メディカルケアステーション）とは
患者・利用者情報等を共有する医療介護関係者専用の連携ツール

（２）開催結果

【第１回】

開催日時	令和６年６月２７日（木）１８時～１９時
開催場所	千住西複合施設
内容	①　ＭＣＳの説明 ②　活用事例共有 ぷえお訪問看護ステーション 佐々木　綾菜　氏 ③　グループワーク
参加者	１４名

【第２回】

開催日時	令和７年２月３日（月）１８時３０分～２０時
開催場所	足立区役所　会議室
内容	①　ＭＣＳの説明 ＭＣＳ事業者　三國　皓平　氏 ②　ＭＣＳの利用について ケアプロ訪問看護ステーション東京 高田　雄貴　氏 ③　活用事例共有 介護相談処みのり 内山　ちあき　氏 ④　グループワーク
参加者	２１名

	（3）今後の方針 令和７年度は年４回開催とし、習熟度別の研修会や足立区医師会と連携した細やかなフォローアップを実施することで、ＭＣＳの活用を推進していく。 **５　今後の方針** 医療介護関係団体と在宅療養のさらなる推進を協議するため「在宅療養推進協議会」を設置する。また、「医療と介護の連携・研修センター」「基幹地域包括支援センター」「成年後見センター」が集まる「すこやかプラザ　あだち」を拠点に、患者・利用者の在宅生活を支える支援体制強化に取り組んでいく。

令和６年度 足立区多職種連携研修会実施結果

報告（１）別紙

	日　時	場　所	参加機関・人数	研修内容	グループワークの内容	アンケート結果・ブロック内の取組
第１回 （千住ブロック）	令和６年 ５月１７日（金） １９時～２１時	帝京科学大学 本館３階教室	・医師会（4 名）・歯科医師会（0 名） ・薬剤師会（7 名）・地域包括（18 名） ・栄養士会（1 名） ・介護事業者連絡協議会（21 名） ・ＰＯＳ（5 名）・柔道整復師会（2 名） ・多機能サービス連絡会（1 名） ・足立区福祉事務所（7 名） 合　計　６６名	**「地域セーフティネット」講義・グループワーク** 講師　帝京科学大学医療福祉学科 教授　山田　健司氏	①　自己紹介、名刺交換 ②　講義を聞いての感想 ③　事例に対して、自分の職域や所属している事業所では、何ができるか	**【感想・自由意見】** ・地域とつながっていること、「社会への参画」が重要である。 ・多職種の連携した支援が、人権擁護や経済活動につながっていく。 **【エリア勉強会・イベント】** ・ランチＭＴ「各職域の紹介等」 ・ＭＣＳ操作研修会
第２回 （北部ブロック）	令和６年 ７月２６日（金） １９時～２１時	こども支援センターげんき ５階研修室３	・医師会（9 名）・歯科医師会（1 名） ・薬剤師会（11 名）・地域包括（7 名） ・栄養士会（1 名） ・介護事業者連絡協議会（16 名） ・ＰＯＳ（5 名）・柔道整復師会（1 名） ・多機能サービス連絡会（0 名） ・足立区福祉事務所（5 名）・災害対策（２名） 合　計　５８名	**「能登地震の災害派遣を基にした災害への取り組み」苑田第一病院 DMAT チームから活動報告の講義・グループワーク** 講師　苑田第一病院 医師　和田　浩輔氏 業務調整員　岩野　隆裕氏 看護師　内藤　律子氏	①　自己紹介、名刺交換 ②　講義を聞いての感想 ③　震災への備えに必要なことをそれぞれの立場で考える	**【感想・自由意見】** ・危機感を持ち、自分事として考える必要性が理解できた。 ・BCP を作成する上で参考になった。 **【エリア勉強会・イベント】** ・ランチＭＴ「フレイルについて」 ・介護医療院の役割等について勉強会
第３回 （中部ブロック）	令和６年 ９月２０日（金） １９時～２１時	こども支援センターげんき ５階研修室３	・医師会（5 名）・歯科医師会（1 名） ・薬剤師会（14 名）・地域包括（11 名） ・栄養士会（3 名） ・介護事業者連絡協議会（8 名） ・ＰＯＳ（2 名）・柔道整復師会（2 名） ・多機能サービス連絡会（1 名） ・福祉事務所（6 名）・災害対策課（2 名） 合　計　５５名	**「被災者の心のケアについて」講義・グループワーク** 講師 東京都立精神保健福祉センター 地域援助医長　鮒田　栄治氏	①　自己紹介 ②　講義の感想 ③　事例の場面を想定し、どのような支援ができるか考える。 ④　情報共有し、個人、事業所としての支援を考える	**【感想・自由意見】** ・災害時の心のケアを聞いて少しでも自分にも貢献できることがあると実感した。 ・様々な職種の方が災害時には、自分の専門以外でも出来る事をしようという気持ちが分かり心強かった。 **【エリア勉強会・イベント】** ・ランチＭＴ「災害について」 ・暮らしの保健室
第４回 （東部ブロック）	令和６年 ９月２５日（水） １９時～２１時	勤労福祉会館 ２階ホール	・医師会（4 名）・歯科医師会（1 名） ・薬剤師会（7 名）・地域包括（11 名） ・栄養士会（3 名） ・介護事業者連絡協議会（25 名） ・ＰＯＳ（3 名）・柔道整復師会（2 名） ・多機能サービス連絡会（1 名） ・福祉事務所（3 名） 合　計　６０名	**「高齢者虐待通報について」講義・グループワーク** 講師 足立区社会福祉協議会　基幹地域包括支援センター課長　山本　武史氏	①　自己紹介 ②　講義の感想 ③　講義の内容をどのように活かすことができるか	**【感想・自由意見】** ・施設勤務していると分からない話が多職種の方々と出来て貴重な経験となった。 ・皆の率直な意見が聞けて勉強になった。東部ブロック全体がいい雰囲気と感じた。 **【エリア勉強会・イベント】** ・ランチＭＴ「各職域からの介護予防」 ・「かけはしの会」
第５回 （西部ブロック）	令和６年 １０月２５日(金) １９時～２１時	ギャラクシティ多目的室	・医師会（6 名）・歯科医師会（0 名） ・薬剤師会（14 名）・地域包括（23 名） ・栄養士会（1 名） ・介護事業者連絡協議会（26 名） ・ＰＯＳ（1 名）・柔道整復師会（1 名） ・多機能サービス連絡会（1 名） ・福祉事務所（3 名） 合　計　７６名	**「多職種によるまちづくりミーティング」講義・グループワーク** 「社会的処方の可能性について」 講師 足立区社会福祉協議会　基幹地域包括支援センター課長　堀　崇樹氏	「まちづくりミーティング」 ①　どんなまちに住みたいか ②　どんな取り組みができるか	**【感想・自由意見】** ・自由な発想で発言できとてもよかった。 ・多職種がフラットに語り合える場があることが、地域の活性化につながることが理解できる。 **【エリア勉強会・イベント】** ・6 ホウカツの特徴および課題の動画作成 ・ふれあい健康まつり

５ブロック合計　３１５名参加（【参考】令和５年度３２２名参加）

令和７年度　第１回地域包括ケアシステム推進会議

報告（２）

令和７年６月１３日

件　　名	**足立区在宅療養推進協議会の設置について**
所 管 部 課	福祉部 高齢者施策推進室 医療介護連携課
内　　容	令和６年度に「医療と介護の連携・研修センター運営準備委員会」を設置し、医療介護団体代表者と在宅療養推進を協議してきた。 協議の結果、令和７年度の「すこやかプラザ　あだち」への「医療と介護の連携・研修センター」開設とともに、在宅療養のさらなる推進を協議する「足立区在宅療養推進協議会」を設置することとなったため、報告する。 **１　協議会の目的** 医療及び介護を必要とする区民が、最期まで住み慣れた地域において自分らしい生活を送ることができるよう、在宅医療と介護を切れ目なく一体的に提供する体制の充実を図る。 **２　所掌事項** （１）在宅医療・介護の推進に関すること。 （２）多職種連携の推進に関すること。 （３）その他前項の目的を達成するために必要な事項。 **３　協議事項** （１）多職種連携研修会及び医療介護スキルアップ研修会に関すること。 （２）ＭＣＳの普及啓発に関すること。 ※　ＭＣＳ（メディカルケアステーション）とは 医療介護関係者の情報連携ツール （３）在宅療養の区民啓発に関すること。 （４）医療介護関連団体が実施する研修の情報共有に関すること。 （５）医療と介護の連携・研修センターホームページの運営に関すると。 （６）その他、在宅療養の推進に関すること。 **４　委員構成　合計２２名**

足立区医師会	**４名**	あだち POS ネットワーク	**１名**
東京都足立区歯科医師会	**２名**	東京都栄養士会足立支部	**１名**
足立区薬剤師会	**１名**	足立区多機能サービス連絡会	**１名**
東京都柔道整復師会足立支部	**１名**	足立区社会福祉協議会	**１名**
足立区介護サービス事業者連絡協議会	**５名**	足立区（福祉部３名・衛生部２名）	**５名**